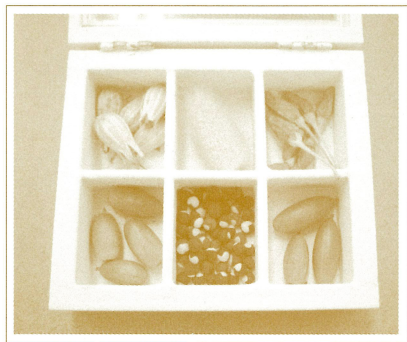


みどり生活の楽しみ⑦～秋の夜長にタネと遊ぶ～

秋もいよいよ深さを増し、春に向けての種まきを済まされた方も多いかと思います。春にお花が満開になった花壇やお庭を想像しながらタネを撒くのは楽しいですよね？

ところで、みなさんは種まき時に残ってしまったタネをどうされていますか？来年また利用する、全部撒ききってしまう、中には捨ててしまうという方もいらっしゃるかもしれません。市販されている種子の寿命は種類や環境にもよりますが、多くの種類で3～4年が限度で、播き時を逃したタネはたった1年でも発芽率がぐんと下がってしまうものだそうです。そこで今回は、古くなって使えなくなってしまったタネ、あるいは残ってしまったタネなどを利用して作るシードコラージュをご紹介します。



< シードコラージュの作り方 >

準備するもの

- ・タネ（いろいろな形、色、大きさをそろえる）
- ・土台になるもの—コルク素材のコースター、写真たて、額などなんでもOK！
- ・木工用ボンドまたはアクアグルー
- ・ピンセットや爪楊枝
- ・飾りになるもの—リボン、スパンコール、ラメなどお好みで

作り方はいたって簡単！土台になるものに好きな形で種子を貼り付けていくだけです。春に播き残ったタネのうち、スイカやカボチャ、豆類のタネは大きくて作業しやすいのでおすすめです。絵の具で色を塗ってもよいでしょう。また、ドングリやトウガラシ（タカノツメ）、エノコログサや木の枝なんかも飾りに最適です。これらの材料はこれからの季節に手に入れやすいものですし、残ってもクリスマスの時期にリースやツリーの飾りに利用できます。

注意して欲しいのは葉っぱや薄い素材のものを貼り付けるとき、接着剤によっては素材の色が変色してしまう恐れがあるので、使用する場合は接着する場所や量に注意し、目立たないところで試してみしてから使用すると良いでしょう。また、水分の多い素材を使うと、カビが生えたり腐ったり、あるいは乾燥によって剥がれ落ちたりすることがあるので、できるだけ避けたほうが無難です。長持ちさせるコツは、やはり乾燥状態を保つこと。湿度の高い場所（浴室や戸棚の中）や、水がかかってしまうようなところ（キッチンの水周りや洗面台など）では、カビや腐敗の原因となってしまうことがあり、飾りには不適切でしょう。そして、保管するにはシリカゲルなどの乾燥剤と一緒にに入れて密閉するといいですよ。

< スパイスを使う >

タネと一緒にレッドペッパーやホワイトペッパー、シナモンスティック、スターアニス、クローブなどのスパイスを利用してもカラフルですし、香りがあったってまた楽しいものです。料理に利用するには古くて・・・といった場合にもコラージュに利用するなら大丈夫！作り方は上記と同様です（ただし粉状のものは飾りには使えません・・・）。

西洋ではクリスマスの時期に香りのインテリアとして、オレンジにクローブをいっぱいさしてリボンで巻いたポマンダー（Pommed amere：ポム・ド・アンブル＝琥珀の玉）というものをつくることがあります。本来は、お守りや厄除けのような目的で作られたようです。これもシードコラージュのひとつといえるのではないのでしょうか？

< 自然の形はおもしろい！ >

素材探しに、一歩外へ出てみると、そこにはいろいろな自然の形が隠れています。たとえばお庭や近くの公園。夏に風船のような形の実をいっぱいにつけていたフウセンカズラを割ってタネをみてもみると、黒地に白のハート模様がついています。これは莢とタネを結ぶヘソの形がそのまま跡になっているのです。また、タネを遠くに飛ばす工夫を持ったキク科の植物アーティチョーク、綿毛はタンポポより大きく、やわらかい感触は動物の毛に見立てて利用できそうです。また、雑草の中でもくっつき虫として誰もが一度は遊んだことがある（？）アメリカセンダングサやオナモミもこれからどんどん実をつけますから、そのとげとげ感をいかしてアレンジしてもおもしろいですよね。

いつもの視点を少し変えて、まだまだ隠れている自然の形を見つけてみましょう！外に出るのが爽やかな季節でもありませんし、変わった形の木の实や果実を見つけて利用すると、また一味違った味わいあるコラージュができると思います。さあ、あなたも秋の夜長に自然の实りを利用したオリジナルのコラージュをつくってみませんか？

高石尚子（大阪テクノ・ホルティ園芸専門学校）

